

第 88 大腸癌研究会 家族性大腸癌委員会
議事録

●日時：平成 30 年 1 月 25 日（木）10:00～11:00

●場所：都市センターホテル 5F スバル

●出席者：（敬称略・五十音順）

〔委員長〕 富田尚裕

〔委員〕 赤木 究, 赤木由人, 新井正美, 石川敏昭, 石川秀樹, 石田秀行, 上野秀樹, 小泉浩一,
坂本一博, 菅野康吉, 田中敏明, 田中屋宏爾, 千野晶子, 問山裕二, 永坂岳司, 檜井孝夫,
平田敬治, 古川洋一, 宮倉安幸, 山口達郎, 山野智基, 吉松和彦

〔オブザーバー〕 河野眞吾, 藤吉健司, 濱中美千子, 山田岳史

〔代理・同行〕 大城泰平, 落合大樹, 北嶋貴仁, 木下敬史, 高橋雅信, 富樫一智, 吉田玲子

〔その他参加者〕 阿部達也, 荒川敬一, 池田正孝, 賀川義視, 川合一茂, 佐々木和人, 白鳥広志,
須藤 剛, 谷 優佑, 豊島 明, 長寄寿矢, 畑 啓介, 堀口慎一郎, 三口真司, 武藤徹一郎,
安富正幸, 矢野雄大, 山田 倫

【挨拶】

富田尚裕 委員長から

平成 29 年度から委員長交替となりましたが、今回は INSIGHT の学会と日程が重なり参加できず、
申し訳ありませんでした。宜しくお願いします。

事務局担当が兵庫医科大学 池田正孝→山野智基に変更

①前回議事録確認：意見無し。承認。

②報告

石田秀行先生から

遺伝性大腸癌ガイドライン 2016 年度版の英語版を 2017 年末に日本大腸肛門病学会の英文誌で
ある Journal of Anus, Rectum and Colon (JARC) に掲載。

【論文】

・ FAP

小西毅先生：掲載

石田文生先生：近々投稿予定

檜井孝夫先生：投稿準備中（Surgery Today へ）

・ Lynch

三口真司先生：アルコールと大腸癌発生：Surgery Today に投稿準備中

遺伝子解析の結果がある症例で胃癌の発生頻度が通常の 23 倍

【プロトコール説明】

○FAP：駒込病院 山口達郎先生

『家族性大腸癌事務局大腸腺腫症(FAP)多施設共同二次研究』

研究代表者：富田尚裕 計画書作成者：山口達郎 初版(ver.0.1) 作成 2018年1月25日

遺伝子情報を収集するとともに、関連病変についても調査する。

目標症例 500 例。

事務局は埼玉医大→兵庫医大に変更。

〔質問〕

京府医 石川秀樹先生から

「これまでとは法律が出来て倫理規程に関しては厳しくなる。インフォームドコンセント不要とはいかないのではないか？」

〔返答〕

「駒込病院の弁護士にも相談します。」

〔検討案件〕

大腸癌研究会の倫理委員会が先か、駒込病院の倫理委員会が先か。

〔質問〕

埼玉県立がんセンター 赤木究先生

「小児ではインフォームドアセントが必要。対象年齢をどうするのか？」

〔返答〕

「検討中です。疑問点があれば連絡して欲しい。」

○Lynch 症候群：岩国医療センター 田中屋宏爾先生

『日本人リンチ症候群の大腸癌・大腸腺腫に対する消化器内視鏡的検討』

研究代表者：富田尚裕 計画書作成者：小泉浩一 研究計画書第 1.5 版

作成 2018 年 1 月 8 日

Lynch 症候群におけるサーベイランスでは大腸内視鏡のみ海外の報告がある。本邦でも大腸内視鏡検査の現状を調べ、その後は胃、小腸について調べ、前向き研究も行いたい。

目標 200 例。既存のデータを用いるのでインフォームドコンセントは要らないのではないか。

京府医 石川秀樹先生から

対応表を用いることなどから、インフォームドコンセントに関しては専門家の意見も確認する必要があるのではないか？ 昨年、法律が通って、4月10日までには施行されるので、それが施行されてから IRB に出す方が良いのではないか。

東大医科研 古川洋一先生から

遺伝子変異があるだけなら SNP と違って個人の識別情報にはならないので、MLH1 遺伝子変異などは該当しない。カルテ情報は要配慮情報となる。

遺伝性大腸癌ガイドラインの改訂について

富田委員長より： 2020年版の作業を今年から開始したい。

京府医 石川秀樹先生から

成人については申請していた遺伝性大腸癌の難病指定は認められなかったが、小児の慢性特定疾患にはPJと若年性ポリポーシスが来年度から認められて、本人負担がほぼ無くなる。小児のFAPに関しては難病班と一緒にガイドライン作成を行ってはどうか？

富田委員長より： Lynch 症候群では大腸癌の他に子宮内膜癌も多く、他癌も発生する。遺伝性大腸癌ガイドラインという名称で出されているものを婦人科、他科の先生が見るのも違和感があるかもしれない。Lynch 症候群については別個にして他科と協力して作成してはどうか？

赤木究先生

PD-1 抗体が適応になりそうで、スクリーニングの問題やいろんな診療科が対象となることになる。

古川洋一先生

PJ も大腸癌だけではない。遺伝性消化器癌としては？

がん研有明 新井正美先生

HBOC についてはHBOC コンソーシアムの中で関係する各診療科が集まってガイドラインを作った。

石田秀行先生

Lynch 症候群に関しては、先のガイドライン作成でも問題になったが、最終的に遺伝性大腸癌診療ガイドラインとすることになった。子宮内膜癌に関しては婦人科医（慶応）に相談したが、他の癌はこちらで作成した。

Lynch 症候群を切り離すなら、他科も含めた別組織をきっちり作って、そこの共同作業で行うべきではないか？

【その他】

石川秀樹先生

遺伝性大腸癌については前向き登録が必要。Cowden 病に関しては動きだしている。

Lynch 症候群ではアスピリンによる化学予防の有効性が海外では示されている。本邦でも今後 行いたい。

富田委員長

日本医大からオブザーバー参加の山田岳史先生を次回から委員に。

【家族性大腸腺腫症】

1. Konishi Tsuyoshi, Ishida Hideyuki, Ueno Hideki, Kobayashi Hirotohi, Hinoi Takao, Inoue Yasuhiro, Ishida Fumio, Kanemitsu Yukihide, Yamaguchi Tatsuro, Tomita Naohiro, Matsubara Nagahide, Watanabe Toshiaki, Sugihara Kenichi. Feasibility of laparoscopic total proctocolectomy with ileal pouch-anal anastomosis and total colectomy with ileorectal anastomosis for familial adenomatous polyposis: results of a nationwide multicenter study. *Int J Clin Oncol*. 2016 Oct;21(5):953-961.
2. Konishi Tsuyoshi, Ishida Hideyuki, Ueno Hideki, Kobayashi Hirotohi, Hinoi Takao, Inoue Yasuhiro, Ishida Fumio, Kanemitsu Yukihide, Yamaguchi Tatsuro, Tomita Naohiro, Matsubara Nagahide, Watanabe Toshiaki, Sugihara Kenichi. Postoperative complications after stapled and hand-sewn ileal pouch-anal anastomosis for familial adenomatous polyposis: A multicenter study. *Annals of Gastroenterological Surgery*, 2017 May; 1-7.
3. Tanaka Masahiro, Kanemitsu Yukihide, Ueno Hideki, Kobayashi Hirotohi, Konishi Tsuyoshi, Ishida Fumio, Yamaguchi Tatsuro, Hinoi Takao, Inoue Yasuhiro, Tomita Naohiro, Ishida Hideyuki, Sugihara Kenichi. Prognostic impact of hospital volume on familial adenomatous polyposis: a nationwide multicenter study. *International Journal of Colorectal Disease*; 2017, 32; 1489-98.
4. Ishida Fumio, Ishida Hideyuki, Ueno Hideki, Kobayashi Hirotohi, Yamaguchi Tatsuro, Konishi Tsuyoshi, Kanemitsu Yukihide, Hinoi Takao, Inoue Yasuhiro, Tomita Naohiro, Watanabe Toshiaki, Sugihara Kenichi. Morphological analysis of carcinomas in Japanese patients with familial adenomatous polyposis. 投稿予定

【Lynch 症候群】

1. Hideyuki Ishida, Tatsuro Yamaguchi, Kohji Tanakaya, Kiwamu Akagi, Yasuhiro Inoue, Kensuke Kumamoto, Hideki Shimodaira, Shigeki Sekine, Toshiaki Tanaka, Akiko Chino, Naohiro Tomita, Takeshi Nakajima, Hirotohi Hasegawa, Takao Hinoi, Akira Hirasawa, Yasuyuki Miyakura, Yoshie Murakami, Kei Muro, Yoichi Ajioka, Yojiro Hashiguchi, Yoshinori Ito, Yutaka Saito, Testuya Hamaguchi, Megumi Ishiguro, Soichiro Ishihara, Yukihide Kanemitsu, Hiroshi Kawano, Yusuke Kinugasa, Norihiro Kokudo, Keiko Murofushi, Takako Nakajima, Shiro Oka, Yoshiharu Sakai, Akihiko Tsuji, Keisuke Uehara, Hideki Ueno, Kentaro Yamazaki, Masahiro Yoshida, Takayuki Yoshino, Narikazu Boku, Takahiro Fujimori, Michio Itabashi, Nobuo Koinuma, Takayuki Morita, Genichi Nishimura, Yuh Sakata, Yasuhiro Shimada, Keiichi Takahashi, Shinji Tanaka, Osamu Tsuruta, Toshiharu Yamaguchi, Kenichi Sugihara, Toshiaki Watanabe and Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2016 for the Clinical Practice of Hereditary Colorectal Cancer. *Journal of the Anus, Rectum and Colon* (in press)
2. Masashi Miguchi, Takao Hinoi, Kohji Tanakaya, Tatsuro Yamaguchi, Yoichi Furukawa, Teruhiko Yoshida, Kazuo Tamura, Kokichi Sugano, Chikashi Ishioka, Nagahide Matsubara, Naohiro Tomita, Masami Arai, Hideki Ishikawa, Keiji Hirata, Yoshihisa Saida, Hideyuki Ishida, Kenichi Sugihara. Alcohol consumption and early onset risk of colorectal cancer in Japanese patients with Lynch syndrome: A cross-sectional study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. *Surgery Today* (投稿準備中)